

2023年度

(2023年4月1日～2024年3月31日)

事業報告書

及び

その他附属明細書

公益財団法人三井物産貿易奨励会

2023年度事業報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

【はじめに】

2023年は5月に新型コロナウイルスが「5類感染症」に位置づけ変更されてから、社会、経済が「脱コロナ」に急速に進んだ年と言えますが、景気回復は道半ばとなりました。ロシアウクライナ戦争の長期化や欧州経済の低迷といった想定通りの悪材料に加え、イスラエル・ハマス戦争勃発による国際情勢の混乱要因もある中で、米国経済は堅調さを続け円安は大幅に進行し、企業の堅調な業績と円安効果により日経平均株価はバブル時を超える史上最高値を更新することとなりました。そのような環境下、日本銀行のマイナス金利政策も、漸く解除の兆しが見えるようになりました。

<最近の経済情勢と財団収益への影響>

収益事業を行わない本財団の収益の基礎は、基本財産の運用益であり、基本財産(2023年度の期初時点で7億4千万円)の殆どを固定金利の高格付け仕組債等によって運用しています。投資有価証券(期末で総額6.5億円)の平均利回りは年率1%を割っている状況(約0.99%)で、2023年度の有価証券他の運用益は約650万円となりました。

尚、2024年3月末現在の保有有価証券の状況は次の通りです。

銘柄	簿価	時価	期末評価差額
フランス電力第4回	3億43万円	2億9,778万円	▲265万円
三菱UFJクレジットリンク	1億円	9,990万円	▲10万円
大和ゴールドマンサックス	1億円	1億23万円	23万円
岡三ゴールドマンサックス	5千万円	4,624万円	▲376万円
JPモルガンストラクチャー	1億円	9,862万円	▲138万円
合計	6億5,043万円	6億4,277万円	▲766万円

<2023年度の事業費他の不足分に対する基本財産の取崩>

2023年度の経常費用は3,718万円となり、前年度3,750万円から32万円の減少となりました。費目別の主な対前期比増減は、ミャンマー奨学生の減少による奨学金の減少や、宿泊施設入居者の早期帰国による借室の前倒し明渡による支払い家賃の減少に加え、リモートワークの為にICT費用の増加や前年度一時的に増えた給与手当等(退職金、福利厚生費等含む)の減少が主要なものとなります。

区分会計ごとの前年度対比は次の通りです。

(単位 : 万円)

区 分	2023年度	2022年度	差 異
公益目的事業会計(1)	2,271	2,291	▲20
公益目的事業会計(2)	702	728	▲26
扶助事業	105	171	▲66
法人会計	640	560	+80
合 計	3,718	3,750	▲32

2020年に発覚した業務上横領事案については、実行犯の2024年の釈放後の賠償協議に向け、西村あさひ法律事務所の担当弁護士にも収監施設での面会を依頼するなどした為、弁護士費用の支払いは前年度の33万円から110万円へと77万円増加したことにより法人会計は合計で640万円となりました。

公益目的事業費合計((1)+(2))の不足額については、従前、三井物産株式会社からの寄附金を充当しておりましたが、2013年1月に同社より環境変化を理由に2013年度以降の当会への寄附を見合わせる旨の通知があり、爾後変化がない状況が続いています。従って、本財団は公益目的事業他を行う公益財団法人であり、基本財産運用益の他に収益源が無いことから、理事会及び評議員会の承認を得た上で、上記不足額に見合う基本財産を取崩して公益目的事業費、及び法人会計費に充当しました。

【2023年度の実施事業】

2012年4月1日に移行認定登記を行った本財団は、2023年度も公益目的事業(公1)として、貿易及び国際経済の研究などを行う外国人留学生に対する奨学金支給、宿泊施設提供及びそれに関連する事項を公益目的事業の柱として継続実施すると共に、公益目的事業(公2)として三井物産株式会社が1992年3月12日に中央三井信託銀行株式会社(現在は三井住友信託銀行株式会社)と契約して設立した「公益信託三井物産インドネシア奨学基金」(以下、奨学基金)並びにその奨学生に対する支援、及びそれに関連する事項を行いました。

公益目的事業に加え、2018年3月5日付けで内閣府から認定を受けた相互扶助等事業(他1)として、三井物産株式会社ヤンゴン事務所が助成するミャンマーからの留学生に対する奨学金支給及びそれに関連する事項にも継続して取り組みました。

また、上記以外に豪州三井物産株式会社が日豪間の結びつきをより強め、相互理解と友情を促進することを目的として1971年に現地に設立した公益信託基金「三井教育基金」が、豪州の大学から選抜した大学生を日本に派遣して行う約3週間の研修プログラムのサポー

ト業務に取り組みました。

<具体的な実施事業>

2023年度に行った具体的な実施事業は、次の通りです。

1. (公1) 外国人留学生に対する奨学金の支給及びそれに関連する事項

(定款 第4条1項1号関係)

2023年度は奨学金支給の継続者(2年目)2名の他、2022年度末で支給期間が終了した者の交替者として大学の公募を経て申し込みのあった者から本財団が選定した4名を加えた合計6名に、月額各10万円を支給しました。

2. (公1) 外国人留学生に対する宿泊施設の提供及びそれに関連する事項

(定款 第4条1項2号関係)

2023年度は、宿泊施設提供者の継続者(2年目)2名の他、2022年度末で提供期間が終了した為大学の公募を経て申し込みのあった者から本財団が選定した2名を加えた合計4名に、本財団が借り上げている国立市にあるアパート4部屋を無償提供しました。賃借料、修繕費及び更新料などのアパートに係る直接費用の合計は前年度とほぼ同じでした。

尚、(公1)の外国人留学生(合計10名)については、留学生支援金として奨学金支給対象者6名に月額1,400円(連絡交通費相当額)を、宿泊施設提供対象者4名には月額10,000円(水道光熱費及び連絡交通費相当額)を別途支給し、支援しました。

また、(公1)の外国人留学生(合計10名)に関連する事項として、原則として毎月1回外国人留学生と個別面談を行い、その結果を関係者に毎月報告した他、10月には研究内容に関する報告書(論文形式)を提出させて生活・修学状況等の情報を収集して受給資格を確認すると共に、日常生活・進路等に係る支援等を行いました。

相互理解の一環として四半期に一度の頻度で開催していた懇親会を継続すると共に、2023年12月には公1、公2、扶助事業による奨学生全員が参加する合同忘年会を開催し、出身国、大学が異なる学生間の交流が更に深まりました。

2023年度の奨学金支給対象者と住居施設提供対象者は次表の通りです。

奨学金支給				宿泊施設提供			
拓殖大学	学部3年	ベトナム	女子	一橋大学	学部3年	韓国	男子
日本大学	学部2年	中国	女子	一橋大学	学部3年	韓国	女子
早稲田大学	博士2年	中国	男子	立教大学	学部3年	中国	男子
千葉工業大学	修士1年	中国	男子	明治大学	学部3年	中国	男子
東京大学	修士2年	中国	男子				
慶應義塾大学	修士2年	中国	女子				

(注) 個人情報保護の観点から、個人名は省略しています。

上記の(公1)事業の1989年度から2023年度までの実績は、次の通りです。

【1989年度から2023年度までの支援実績】

	(外国人留学生の個人数)	(外国人留学生の延人数)
奨学金支給	158名	254名
宿泊施設提供	97名	158名
特別研修生	6名	12名
合計	261名	424名

(注) 延人数とは1名・1年間=1名とし、1名・2年間なら2名としています。

3. (公2) 公益団体等及びその奨学生に対する支援及びそれに関連する事項

(定款 第4条1項3号関係)

(1) 公益信託三井物産インドネシア奨学基金に対する支援として次の活動を行いました。

ア. 奨学基金が行う奨学生の募集選考に関する支援

2023年度採用の25期生2名の募集選考、及び2024年度採用の26期生の募集に関して、次の支援を行いました。

【募集選考の支援実績】

日程	25/26期生の募集選考に関する支援実績
2023年 4月 2日	25期 筆記試験(オンライン)の実施
4月 6日	筆記試験結果の発表
5月 3日	心理試験
5月 26日	総合的な結果発表(面接試験受験候補者の選抜)
6月 16日	面接試験の実施(面接委員は日本から2名が参加)
6月 17日	最終選考結果の発表(合格者2名)
7月 3日	ビザ関連書類の提出期限
7月中	PERSDAによる現地での日本語教育開始
9月中	VISAの申請その他来日手続きのサポート
2024年 1月 2日	ウェブサイトにて26期生募集要項掲載

1月15日	26期登録開始
2月16日	26期登録締め切り
3月13日	応募書類による筆記試験受講候補者選考

(2) 奨学生に対する支援として、次の事項を行いました。

ア. 25期奨学生の本邦への受入及び生活手配

2023年度の25期奨学生は10月4日に来日し、JASSOの入学式にも間に合いました。在留登録や、銀行口座の開設など、日本での勉強、生活が早期に立ち上がる様サポートを実施しました。

イ. 2023年度の奨学生（10名）は次の通りです。

期生	男女別	大 学
21期生	女性	東京工業大学電気・電子工学部4年
21期生	女性	東京理科大学理工学部応用生物学科4年
22期生	女性	京都大学農学部地域環境工学科3年
22期生	女性	早稲田大学創造理工学部建築・社工・資源学科3年
23期生	男性	東京工業大学 環境社会理工学院 1年
23期生	男性	東京理科大学 工学部電気工学科 1年
24期生	男性	東京日本語教育センター 早稲田大学 進学予定
24期生	男性	東京日本語教育センター 中央大学 進学予定
25期生	女性	東京日本語教育センター
25期生	男性	東京日本語教育センター

「月例会」の開催などにより近況等情報を収集すると共に奨学生の生活上の問題・修学進捗度・希望進路等に関する助言を行う他、必要な生活・学習情報を提供しました。また、日本語学校より、日本語学校在学中の奨学生の学習進度・生活状況等の情報を聴取し、要望・提言の申入れも行いました。

尚、奨学生の対応に当たっては、奨学基金運営委員（学識経験者）、独立行政法人日本学生支援機構日本語教育センター（学務・校務・総務）等の担当者の助言を仰いで実施致しました。

ウ. (公2)に関連する事項として、奨学生が支払った奨学基金が負担すべき経費の精査、並びに奨学基金に対する支払依頼等を行いました。

尚、(公2) 事業に関する費用は、前年度の728万円から702万円へと若干の減少となりました。

4. (他1) その他の団体及びその研修生等に対する支援及びそれに関連する事項
(ミャンマー人留学生に対する奨学金の支給及びそれに関連する事項)

(定款 第4条1項4号関係)

2023年度の奨学生(2名)は次の通りです。

	学部・学科
男性	東京農業大学大学院国際農業開発学科博士3年
女性	東京農業大学国際食糧情報学部国際農業開発学科4年

*博士3年の男性は、ビザが未発給であるため、2024年3月末時点で来日出来ていません。

2023年度は、ミャンマーのイェジン農業大学から転籍して東京農業大学に入学した留学生を対象者として本財団が選定した1名に継続して月額各5万円を支給しました。本来奨学金支給対象者は2名でしたが、その内1名にビザの発給がなされておらず、結果的に1名になりましたので奨学金の支給分が予算より減少しました。残額に就きましては扶助事業積立金として2024年度に繰り越しました。扶助事業総額の経常費用は対象人数が前年の2名から1名に減少したこと等から、171万円から105万円に減少となりました。

また、関連する事項として、原則毎月1回ミャンマー人留学生との面談を行った他、四半期に一度程度の頻度で懇親会を開催しました。

前記の他に豪州三井物産株式会社が現地に設立した「三井教育基金」が日本へ派遣する豪州の研修生(大学生)の本邦における研修活動のガイダンス、日本企業・豪州大使館訪問、ホームステイ、三井物産内定者によるアテンドプログラムなどに関する連絡調整及び手配確認等の補助業務を実施しました。

【2023年度 三井教育基金に関する補助業務】

(月日)	(補助業務)	(補 足)
9月 8日	三井物産人事総務部への依頼	2024年度内定者からの協力者選定依頼
9月 29日	茅ヶ崎国際交流会への情報提供	豪州研修生情報の翻訳、一覧表の作成、送付
10月 23日	三井物産内定者への協力依頼	
11月 09日	三井物産内定者への事前説明会	12月10~11日の豪州研修生応対概要説明
11月 22日	歓迎昼食会	内定者と豪州研修生の昼食会
11月 22日	三井物産での講義、企業訪問	Moon クリエイティブラボ
12月 11日	三井物産幹部表敬訪問	豪州研修生の感想聴取(取纏めは現地で対応)

12月中旬	内定者交流会費用精算書入手	内定者(会計)より経費精算書入手及び確認
12月	旅行会社との費用精算	旅行会社との立替経費精算

【2023年度 三井教育基金の日本派遣豪州研修生一覧】

(大学名)	(専攻)	(学年)	(性別)	(年齢)
カーティン大学	メカトロニクス工学	学部4年	男子	22
ラ・トローベ大学	国際関係法	学部3年	女子	21
マッコーリー大学	会計学	学部3年	男子	21
モナッシュ大学	生命医科学	学部3年	女子	21
クイーゼランド工科大学	都市開発	学部3年	女子	22
南オーストラリア大学	心理学	学部2年	男子	20
シドニー大学	メディア・国際関係	学部4年	女子	22
ウーロンゴン大学	法学・哲学	学部2年	男子	20

【2023年度 三井教育基金の日本派遣豪州研修生の研修日程】

(研修日程)	(研修内容)
2023年11月21日(火)	羽田着
11月22日(水)	三井物産本店(講義)、Moonクリエイティブラボ
11月23日(木)	東京観光:東京国立博物館、浅草寺、秋葉原
11月24日(金)	平和学園湘南高校、茅ヶ崎でのホームステイ
11月25日(土)	着物、お茶会、茅ヶ崎国際協会歓迎会、茅ヶ崎でのホームステイ
11月26日(日)	ホストファミリーとの交流
11月27日(月)	箱根観光:芦ノ湖、大涌谷、温泉(箱根泊)
11月28日(火)	トヨタ産業技術博物館、名古屋観光(京都泊)
11月29日(水)	京都観光:二条城、金閣寺(摂南大学との観光、夕食)
11月30日(木)	奈良観光:奈良公園、東大寺、法隆寺(京都泊)
12月01日(金)	神戸観光:日本盛酒造所見学、震災記念館(日豪協会との夕食)
12月02日(土)	広島観光:平和記念公園(京都から移動)
12月03日(日)	広島観光:宮島、厳島神社(京都へ移動)
12月04日(月)	豪州大使館表敬(午後は自由行動)
12月05日(火)	バンダーサービス、エームサービス事業所見学
12月06日(水)	Lendlease Japan 訪問、慶應義塾大学生との交流会
12月07日(木)	フリー
12月08日(金)	三井物産本店(講義)
12月09日(土)	三井物産2023年度入社内定者との交流会
12月10日(日)	三井物産2023年度入社内定者との交流会
12月11日(月)	三井物産幹部表敬訪問、反省会、成田発

以上

公益財団法人三井物産貿易奨励会

《事業報告書の附属明細書》

2023 年度事業報告書の附属明細書については、事業報告書内に記載されている為、作成を省略している。